

新穂高温泉 深山荘

Shin Hotaka Onsen Shinzansou
(岐阜県高山市)



外観

奥飛騨温泉郷は平湯温泉、新平湯温泉、福地温泉、朽尾温泉、新穂高温泉の5つの温泉を総称して言う。露天風呂の総数はなんと170。日本有数の露天風呂の集積地である。

今回紹介するのは、新穂高温泉にある老舗旅館・深山荘だ。新穂高温泉は蒲田川の上流に位置する静かな温泉街であり、その蒲田川は穂高連峰の西側斜面が流域となっている。深山荘は穂高や笠ヶ岳といった山を目指す登山家が利用した山の宿であったが、今はマイカーで訪れる温泉客が多い。

新穂高と言えば、新穂高ロープウェイスキー場を思い出す。かつて、私は標高差の大きいスキー場を好んで訪れていた。新穂高ロープウェイスキー場の標高差は1,000m以上。最上部からのコースは狭い尾根である上にコブだらけであった。延々と続く尾根が終わると、恐ろしく急な大斜面が待ち構えていた。スリル満点のスキー場であったが、今はスキー場としては閉鎖され、リフトは跡形もなく撤去された。ロープウェイが通年営業で観光客や登山者を運んでい

る。2本のロープウェイを乗り継いで最上部まで行くと、天気さえ良ければ360度遮るもののない北アルプスの景観を堪能できる。

さて、深山荘を紹介しよう。深山荘は、新穂高ロープウェイの乗り場に至る途中の洞門の切れ目が入口である。注意して見ないと通り過ぎてしまう。吊り橋の手前で車を止め、吊り橋で蒲田川を渡ったところが深山荘だ。木造の古い建物が見える。

深山荘の風呂は内風呂と露天風呂がある。しかし、内風呂と露天風呂はつながっていないので、両方を利用する場合は一旦服を着用しなければならない。

まずは露天風呂から紹介しよう。露天風呂は、男湯が2槽、女湯が1槽で、混浴が1槽ある。男湯から見ると、浴槽が河原へ向かって3段の構成になっており、一番下が混浴だ。

ちなみに、男湯と混浴は対岸の洞門から丸見え。一方、女湯は見えないようになっているようだ。丸見えがいやな人のために、体を隠せるバスローブのようなものも無料で貸してもらえる。自分の××に自信のない人も重宝できよう。

露天風呂は岩風呂となっており、最上段の男湯だけに笠型の屋根が用意されている。真冬にこの露天風呂に入るのはかなりの勇気がいりそうだ。川の流れる音とそこから発生する大量のマイナスイオンを浴びながら入浴を楽しもう。湯温はいずれも適温だ。

露天風呂の脱衣場はちゃんと屋外とは隔離されており、中には籠がたくさん置いて

ある。ロッカーはないので、貴重品がある場合は玄関にある貴重品ロッカーを利用しよう。

露天風呂は、この他に貸切露天風呂が2つある。フロントに貸切露天風呂の鍵が置いてあれば、宿泊客はいつでも無料で貸切露天風呂を利用できる。

内風呂は少々狭い。洗い場が3箇所しかない。カランはシャワーヘッド付のサーモスタット混合栓。シャンプー、コンディショナー、ボディーシャンプーは用意されている。浴槽は年季の入った木製。2槽構造になっており、湯温は奥が熱く、手前が適温である。

深山荘の食事は、飛騨牛や山菜、きのこ、川魚などの山の幸が主体だ。温泉を楽しみ、普段味わえないような山の幸をいただく。これぞ日本の温泉宿である。

ちなみに、深山荘の湯は、単純温泉（中性低張性高温泉で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消火器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進に効くという。

新穂高温泉には、下界にあるような射的やスナックのような遊び場はない。そこは山岳リゾートそのもの。体と心を癒すための温泉だ。

- **名称**：新穂高温泉 深山荘
- **所在地**：岐阜県高山市奥飛騨温泉郷新穂高温泉
- **日帰り入浴営業時間**：露天風呂は8：00～17：00、18：00～22：00、内風呂は9：30～15：00
- **宿泊客入浴時間**：24時間
- **定休日**：不定休
- **日帰り入浴料**：露天風呂は大人500円、小人300円、内風呂は大人700円、小人500円
- **宿泊客入浴料**：無料

- **電話**：0578-89-2031
- **サウナ**：なし
- **サウナ内のテレビ**：なし
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部
- **取材日**：2011年11月19日（土）



男湯露天風呂最上段



男湯露天風呂2段目（上）と混浴露天風呂（下）



内風呂